

【県内で唯一!!】

響灘ビオトープが国の『自然共生サイト』に認定！

～生物多様性の保全貢献区域として認められました～

「自然共生サイト」とは、COP15 で世界目標として定められた「30 by 30」(※1)の達成を図るため、国(環境省)が、民間の取組等により生物多様性の保全が図られている区域を認定するもので、令和5年4月から始まった取組です。今回、第1回目の認定として、全国で122箇所、九州で12箇所が認定されており、福岡県内では響灘ビオトープが唯一の認定となります。認定地はOECM(※2)として国際データベースに登録されることとなります。

響灘ビオトープ(若松区)には、ベッコウトンボ(昆虫類)やチュウヒ(鳥類)などの数多くの生物が生息し、自然とのふれあいや生物多様性の保全を進める拠点となっており、今回の内定により、世界目標の達成についても、貢献していくこととなります。

＜響灘ビオトープの生物多様性の価値について＞

- 自然環境学習拠点として機能し、800種もの多様な動植物からなる健全な生態系が存在している
- チュウヒやベッコウトンボ等の絶滅危惧種が生息生育している
- 環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定されるなど、生物多様性保全上の重要性が認められている



ベッコウトンボ
環境省レッドリスト
絶滅危惧 IA 類



チュウヒ
環境省レッドリスト
絶滅危惧 IB 類

※1：世界目標(30by30(サーティバ イサーティ)目標)

生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」や、「生物多様性国家戦略2023-2030」で盛り込まれた目標で、2030年までに陸域と海域の30%以上の保全を目指すもの。

※2：OECM(Other effective area-based conservation measures)

国立公園等の法令による保護地域以外で、生物多様性保全に資する地域のこと。企業の森、ビオトープ、里地里山等、多様な場所が該当する可能性がある。OECMとして国際データベースに登録されると30by30目標達成に直接貢献することができる。



響灘ビオトープ

響灘ビオトープ公式マスコットキャラクター



ベっち



ひびちゅ